

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～

梅下村塾生

59



塾長 梅内 拓生

(歴史の記憶と教

育)

大船渡市立第一中
校の「5・7・5」
「5・7・5・7・7」
作品から第3報

一中祭 響く太鼓の
鹿踊り

中2・女子
山焼く人々 新芽をね
がう

詠み人知らず
歌い舞う 九頭立ての
鹿踊り(教諭)

盆の祭りや 街角のひ
ろば
詠み人知らず
何千の 子等の歌声
覚えてる
この体育館の 全ての
壁は

教諭

話)

(生徒と教諭との会

生徒 鹿踊りを踊っ
ているうちに鹿たちの
会話が何となくわかる
ような気がしてくる!

教諭 宮沢賢治の鹿
踊りのことかね?

生徒 気仙の鹿踊り
には鉄砲を持った猟師
の役割もふくまれてい
るのですね! 宮沢賢治
のものには、ないと思
いますか?

教諭 その通りだ
よ! 気仙の鹿踊りは江
戸時代に生まれたもの
らしいね!

生徒 踊っているう
ちに、鹿と猟師とス
キの生い茂っている山
の情景が浮かんできま

す!
教諭 それを感じる
ことが大切なのだよ!
まさに地域文化の伝承
だね!

第一中学校の生徒に
も教諭にも気仙地域の
歴史と文化の記憶が伝
わっており、春の山焼
き、夏の盆祭り、中学
の文化祭など、現実の
生活の中にいろいろな
姿が浮かび、現らわれ
てきます。この伝統を
受け継ぐなかに、地域
文化に対する若者たち
の心が育ってきており
ます。

平成25年1月5日の
本紙の第4面の東海文
芸の詩 元朝参り 気
仙沼市から桑町 横沢
和司氏の作品を詠みか
えて、「歴史の記憶と
教育」につなげて見ま
す・「雪化粧 灯る鳥
居や 娘たち 今年の
祈り しめ縄に託
す」、西行法師の返歌
「何事のおはしますか
を知らねども有難さに
ぞ涙こぼるる」とつな

げてみました。詩 あ
かね色の雲 あかね詩
の会一同(ことばのパ
ッチワークより)の作
品を詠みかえて、「朝
日浴び 遠い山並 雀
たち 雲が微笑み あ
かね色」、額田王の返
歌「あかねさす紫野行
き標野行き 野守は見
ずや君が袖振る」朝夕
の山の景色と歴史の抒
情歌をつなげてしまし
た。

本紙第1面の世迷言
に述べられている駅伝
の代走の主張は、ギリ
シャ発祥のマラソンは
個人の競争であり、日
本の駅伝は、日本文化
の短歌、俳句の「つな
ぎ」の文化を受け継い
でいるものであると言
っているように解釈し
ました。歴史の記憶を
どのように教育として
取り上げて、後世に伝
えていくべきか、これ
は、21世紀の文明に突
き付けられた大きな課
題であると思います。